

高校復活「町に光」



「背中が燃えあがっているような気分なんだ」
2002年5月15日撮影 1993.10.19 マサユキ 1/15

このへ郷土館に飾られている、五戸高2002年度母親委員会が作成したタペストリー。左から三浦武志同窓会長、木村恵美子委員長、高奥浩明五戸町議。現在も多くの来館者が見入っている＝2023年3月、五戸町

2022年3月に五戸高「校がなくなつた五戸町。28
が閉校してから、地元の高 日の町議会全員協議会で、

旧五戸高に野辺地西高移転

2年前に閉校した旧青森県立五戸高に、八戸学院野辺地西高が移転する構想が明らかになった28日。

「高校ある環境維持したかった」

五戸町民歓迎、活性化期待

地域の高校が復活する見通しとなつた五戸町の町民からは「町に光が差した」など歓迎する意見が相次ぎ、地域活性化への期待も広がった。上十三地域唯一の私立高がなくなる野辺地町では「残念だ」「やむを得ない」といった声が聞かれた。【1ページに本記】

町側から旧五戸高へ八戸学院野辺地西高を誘致する方針について町側から報告を受けた後、五戸高OBでもある川村浩昭議長(76)は「町の中に高校がある環境は何とか維持したかった」と胸の内を明かした。

「卒業生にとって思い入れがある場所。違う高校になるが、生徒が再び通う光景がよみがえるのはうれしい」と話すのは、五戸高同窓会長の三浦武志さん(66)。

かつての五戸高と、野辺地西高がサッカーの強豪校という共通点があることに触れ、「地域にうまくなじむと思う」と「サッカーの町」として再び盛り上がることを願った。

同町豊間内このへ郷土館には、旧五戸高の記憶を

残そうと、2002年度の母親委員会が制作したタペストリーが飾られている。当時委員長を務めた木村恵美子さん(64)は「町に光が差したような出来事。町を挙げて歓迎すべきだ」と喜びつつ、「五戸」の2文字が刻まれた学校があつたことも大切にしたい」と述べ、旧五戸高の存在にも配慮した環境づくりを求めた。

町の大きな課題にもなっている中心商店街の活性化。町内に高校が復活することできざわい創出に期待する人も多い。同町下大町で「趣味の店」を営む柿本広子さん(76)は「登下校で生徒が行き来するだけでも雰囲気が変わる」と話し、早期の移転を望んだ。

(田村純也)